



乳幼児医療に関する相談窓口
(保健福祉センター1階 福祉課)

子育て支援の充実を

◆義務教育修了まで無料化を
 問 子どもの医療費助成をめぐる運動は、「乳幼児」から「義務教育修了まで」と大きく発展している。本市でも中学卒業まで無料化を拡大すべきと考えるがどうか。また、窓口無料化について必要と考えているか。(柴田)

答 現在、中学校まで年齢を拡大することは考えていないが、県の動向等踏まえ検討していく。窓口無料化については、子育て支援策として進めていくべきと考えている。

◆市立保育園の堅持と充実をめぐり、保護者が市に求めた

ものはこれまでの市立保育園の保育への信頼と公的保育の堅持充実だったのでないか。国の子育て新システム、子ども園構想は不確定要素が多く児童福祉法に基づく市立保育園の堅持、充実で「安心して子どもを預けることのできる保育園を」の願いを受け止めるべきと思うが。(鈴木)

答 桔梗ヶ原保育園、吉田原保育園保護者会を中心に多くのご意見をいただいた。保護者会の提案を受けての対応や、協議を行っていく。社会福祉法人の保育園には、未満児保育、施設面など、保護者の声を伝えていく。子育て新システムについては骨格部分の論議の段階だが、危惧の声もある。市としては児童福祉法に沿った保育事業を着実に進め、よりよい保育と子育て支援を積極的に推進している。現在



元気に遊ぶ子どもたち

の保育水準を確保した上で幼児教育機能との整合を図り、保育の充実に努める。



好評だったワークライフバランス講演会

健康で充実した生活に向けて

◆健康対策の強化を
 問 市職員の健康管理では心と身体の24時間電話健康相談を実施している。様々な要因で社会不安が多い中、安心して相談できる支援が市民にも必要ではないか。(山口)

答 健康面での悩みや不安に対し支援体制を整えていく。

◆職員に働きやすい環境を
 問 職員に働きやすい職場環境を提供するために、ワークライフバランスの考え方は重要だが、市にはどんな方針があるのか。(小野)



水道管工事現場

上下水道の管理更新を

◆汚水・雨水管渠について
 問 汚水、雨水管渠の陥没による道路の損壊はないか。また耐用年数は。(太田)

答 汚水管渠、雨水管渠ともに耐用年数は50年であり、地下水等による管渠基礎の流出による道路陥没は、パトロール等による事故未然防止に努める。

◆上水引込連合管の解消は
 問 上水道の引込連合管(複

答) 仕事と子育ての両立のために制度を整えると共に、制度を取得しやすい環境づくりや職場の事務効率化を図っていききたい。